

# 「平和で安らぎと活力のある沖縄県」の実現に向けて

## 1. はじめに

沖縄県は、東西約1,000km、南北約400kmの広大な海域に、大小160の島々からなる島しょ県です。かつて沖縄が琉球王国だった時代、我々の先人たちは、季節風を船の帆に受け、四方の海に漕ぎ出し、中国や東南アジア諸地域との交流を通じて、独特の歴史や文化を育んできました。

わが国唯一の亜熱帯地域として、豊かな自然環境や景観、さらに特有の歴史と文化等の観光資源に恵まれ、国内でも有数の観光地として、国内外から多くの観光客が訪れています。

沖縄県では、沖縄観光の持続的な発展に向けて、効果的な誘客プロモーションを展開するとともに、自然環境の保全に配慮しながら、国際的な観光・リゾート地にふさわしい受け入れ体制の整備を進めています。

また、2000年「九州・沖縄サミット首脳会合」



沖縄県 竹富島

の開催を契機に、国際会議や企業コンベンション等に加え、冬場でも温暖な気候を生かしたプロ、アマスポーツのキャンプ・合宿等の誘致、さらに企業インセンティブツアーの実施など、官民一体となった取り組みを推進し、「コンベンション・アイランド」の形成を図っています。

## 2. 沖縄振興計画

21世紀の新たな沖縄振興の方向を示す「沖縄振興計画」では、沖縄の地域特性を積極的に活かしつつ、自立的発展の基礎条件を整備し、豊かな地域社会を形成するとともに、わが国ひいてはアジア・太平洋地域の社会経済及び文化の発展に寄与する特色ある地域として整備を図り、「平和で安らぎと活力のある沖縄県」の実現を目標としています。

沖縄県の社会資本については、自立経済の構築や国際交流・協力拠点の形成を図るための戦略的な整備を進めるとともに、自然環境や歴史、気候風土、景観等に配慮し、県民生活の利便性・快適性の向上に加え、真に安らぎと潤いを享受できるような質の高い整備に取り組んでいるところであります。

具体的には、戦後初の軌道系交通機関である沖縄都市モノレールの開業、新石垣空港整備事業や伊良部架橋の本格着工など、持続的な発展を支える

沖縄県知事

なか い ま ひろかず  
仲井真 弘多



基盤づくりが着実に進展してきました。

今後、那覇空港滑走路の増設、モノレールの延長、都市部における慢性的な交通渋滞の緩和などの社会資本整備を推進していく必要があります。

県としては、今年度が沖縄振興計画期間中、最後の実施計画となる第3次分野別計画の初年度にあたることから、これまでの諸施策の成果を踏まえて、着実な施策の展開を図り、県民の豊かで潤いある生活環境を実現していきたいと考えております。

### 3. 地域づくり

まちづくりは、地域固有の自然、文化、歴史、環境、景観などの資源を大切にするとともに、それを活用し、地域の発展につなげていくことが重要であり、住民参加のもと、地域の創意工夫を活かした計画を積極的に定め、きめ細かな地域づくりに努める必要があります。

近年、まちづくりについては、住民意識の高まりや公共事業の是非に対する議論を反映し、まちづくりの構想段階から地域住民の意見の反映や計画策定への参加が求められています。

沖縄県の都市計画は、これまで、戦後無秩序に形成された市街地や急速なスプロール化への対応という観点から、主に行政主導により計画がなされたこともあり、計画そのものが必ずしも地域住

民に満足感を与えているとは言えないケースもありました。

しかしながら、最近では、本島中部におけるアメリカンビレッジ構想に見られるような独自のコンセプトによる地域の活性化や、沖縄独自の住まいや集落・まちなみ景観など伝統的住文化を保存・育成し、個性と魅力あるまちづくりによる地域再生を行う事例も見られるなど、沖縄らしいまちづくりが進みつつあります。

これからも、地域特性を活かした、沖縄らしい魅力的なまちづくりを目指して、住民やNPO等と連携を図り、協働して地域づくりに取り組んでまいります。

### 4. おわりに

これからの、沖縄の振興に向けて、県民一人ひとりが沖縄に誇りと自信を持ち、沖縄がアジア太平洋諸国地域の交流拠点として、自立した経済のもとで発展していけるよう、「平和で安らぎと活力のある沖縄県」の実現に取り組んでまいりたいと思います。

温暖な気候に恵まれた沖縄は、一年を通して美しい自然や景観、歴史、文化を感じることができます。南の島の「寒緋桜」は、一月が見頃です。どうぞ、「美ら島沖縄」へめんそーれ（おいでくださいませ）。